

# 良子さんの ほっと一息ティータイム

ねこん け あめ  
猫毛雨

熊谷良子 vol.13

6月に結婚すると幸せな生活をおくれるといわれるジューンブライド。  
梅雨を迎える日本では、どうぞ結婚式の日は晴れてくださいと手を合わせます。  
結婚式だけでなく、たいていの行事では、やはり雨がなことを喜び合います。  
一方で、雨はすべての生あるものを育むこと、まさに天からの贈りものであることも知っています。  
日照りが続く「雨乞いの歌」や神事が執り行われます。  
日照り続きのころに降る雨は「旱天の慈雨」であり、「喜雨」です。  
雨を表すことばからは、そこに込められた人々の思いを感じ取ることができます。

季節は冬に向かう頃の雨の思い出があります。  
「今日のような雨を猫毛雨といいます」とテレビから聞こえてきました。  
3階の病室にいた私は、階段を駆け下りて、広い駐車場を横切り、あぜ道に立ちました。  
佇む私をひたすらなだめるように、柔らかく透明な「猫毛雨」はそこにありました。  
当時、終末期の夫の看病と3人の子育てと仕事に圧迫されながら、  
ただ「献身」を自分に強いていた月日から静かに解けていくようでした。  
「猫毛雨」は、私を救ってくれた雨です。  
ちなみに、「猫毛雨」とは「宮崎県日向で、霧雨のこと。こまかな雨を猫のやわらかな毛にたとえたもの」

※とありました。日向発祥の名前なのですね。

※参照文献 高橋順子・佐藤秀明 『雨の名前』2001 小学館



2023.6.